

令和 7 年 3 月
富山市農業協同組合
富山農林振興センター

コシヒカリの播種は4月26日頃から！ 田植えは5月15日頃を中心に

消 毒	浸種開始	播 種	田植日	(育苗日数)	出穂期
4/7(月)	4/8(火)	4/19(土)	5/10(土)	(21 日間)	7/31 頃
4/16(水)	4/17(木)	4/26(土)	5/15(木)	(19 日間)	8/ 3 頃
4/25(金)	4/26(土)	5/ 3(土)	5/20(火)	(17 日間)	8/ 7 頃

月 日	作 業	温度管理	作 業 管 理 の ポ イ ン ト	比重選液の作り方の目安																		
4/15	比重選	水温 10~15℃ 確保	①比重選で種籾を厳選 ・病気や発芽不揃いをしっかり予防する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種籾</th> <th>比重</th> <th>硫安 (水 10ℓに)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>うるち</td> <td>1.13</td> <td>2.5kg</td> </tr> <tr> <td>もち</td> <td>1.08</td> <td>1.5kg</td> </tr> </tbody> </table>	種籾	比重	硫安 (水 10ℓに)	うるち	1.13	2.5kg	もち	1.08	1.5kg									
種籾	比重		硫安 (水 10ℓに)																			
うるち	1.13		2.5kg																			
もち	1.08	1.5kg																				
4/16	種子消毒	②種子消毒を徹底し、病害の発生を予防 ・モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬する。 (種子消毒水温10~15℃を維持！) ・消毒中は、種籾袋を2~3回上下に動かし、種子を完全に浸漬する。 ・消毒液の使用は1回限りとし、繰り返し使用しない。	必ず 化学農薬で 消毒																			
4/17	浸 種	③浸種は積算温度を十分に確保 水温 × 日数 = 積算温度 100~120℃程度 ・催芽を揃えるため水温は10~15℃とし 籾容量の2倍の水に浸漬する。 ※ 浸種を開始した初日の水温確保が重要 (12~13℃) ・水交換 (2日に1回) を行い、酸素不足を防ぐ。 ・浸種期間の後半は、必ず籾を確認し、芽が動いていたら浸種を終える。	早生・中生品種の 浸種の目安 水温 浸種日数 10℃ → 10~12日間 15℃ → 7~8日間																			
4/25	催 芽	育苗器温度 28~30℃ 20~24時間	④芽が伸び過ぎないように、こまめにチェック！ ・催芽を揃えるため、1日2~3回袋を反転させる。 ・均一に播種するため、種籾の水切り (脱水) は十分に行う。 (籾が手に付かない程度にまで陰干しを行う)	令和7年用種子は登熟期間の高温により休眠がやや深く、芽のそろいがばらつく傾向があることから、平年に比べ浸種を1日程長くする(浸種積算の目安100~120℃)。																		
4/26	播 種	育苗器温度 30℃ 2~3日間	⑤播種は「うす播き」 乾籾 120g/箱が基本 乾籾 120g ・加工床土は 床土: 18mm 覆土: 5mm ・軽量培土は 床土: 15mm 覆土: 8mm																			
4/29	出 芽		⑥育苗器の温度は30℃が適温 こまめに温度や出芽状況をチェック！ ・事前にサーモスタットの温度計を確認する。	育苗箱のイメージ ・培土の充填深度は床土と覆土あわせて25mm程度とする。 苗箱上部との隙間5mmとし、培土に水をムラなくしみこませ、給水量も増加し乾きにくくなる。																		
5/1	播 種	葉やけ注意！ ハウス内温度 昼: 25℃以下 夜: 10℃以上	⑦芽の長さが1cmに揃ったら搬出 ・搬出時に覆土を落ち着かせる程度に必ずかん水する！ ・原則、日中は搬出直後から換気を行う。 ・緑化後、速やかに被覆資材をはずす。	日射が強くハウス内が高温になる場合は 搬出直後でも換気する																		
5/15	硬 化		⑧ハウス内の温度が25℃以上にならないよう換気を徹底 かん水は朝にたっぷりと！日中は床土の乾きに応じて！ ・荒天でない場合は、夜間もハウスを開け換気を行う！	田植えの7~10日前には 昼夜ともに換気する																		
5/15	田植え	ハウスの強風対策は万全に！ 強風が予想される場合は育苗ハウスを点検し、必要に応じて補強しましょう！	育苗期間中の病害対策 <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象病害</th> <th>使用薬剤名</th> <th>希釈倍率</th> <th>散布量</th> <th>防除時期</th> <th>使用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>白カビ、青カビ</td> <td>ダコレート水和剤</td> <td>500倍</td> <td>500cc/箱</td> <td>播種14日後まで</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>ムレ苗 苗立枯病</td> <td>ナエファイン フロアブル</td> <td>1000倍</td> <td>500cc/箱</td> <td>播種時から緑化期</td> <td>2回以内</td> </tr> </tbody> </table>	対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数	白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	500倍	500cc/箱	播種14日後まで	2回以内	ムレ苗 苗立枯病	ナエファイン フロアブル	1000倍	500cc/箱	播種時から緑化期	2回以内	
対象病害	使用薬剤名	希釈倍率	散布量	防除時期	使用回数																	
白カビ、青カビ	ダコレート水和剤	500倍	500cc/箱	播種14日後まで	2回以内																	
ムレ苗 苗立枯病	ナエファイン フロアブル	1000倍	500cc/箱	播種時から緑化期	2回以内																	

裏面につづく→

春の土づくり

～いざ土づくり！ 美味しい富山を届けよう！～

近年は登熟期間の異常高温により、「コシヒカリ」を中心に白未熟粒や胴割米が発生しています。高温等の気象変動に打ち勝つ米づくりには、強い稲体づくりが大切であり、その土台となる「根」を育てる「土づくり」が重要です。

土づくり資材や有機物の施用、深耕による「春の土づくり」を行い、地力の向上に努めましょう。

☆土づくり資材の施用

- ・ケイ酸は稲の茎葉を丈夫にし、葉を直立させる効果があるほか、病害虫に対する抵抗性を高めるなど、収量品質の向上に効果の高い成分です。また、近年、発生が増えている「ごま葉枯病」は、ケイ酸分、カリ、鉄分含量などの不足による地力の低下により発生が増加します。
- ・腐植が少ない砂質や砂壤土のほ場では、「発酵鶏ふん」などの有機物を積極的に施用し、土壌中の腐植やカリ、リン酸などの不足養分を補い、地力の維持や向上に努めましょう。
- ・土づくり資材の施用は継続することで効果が現れます。昨年の秋に施用していない場合は、耕起前に土づくり資材を確実に施用しましょう（春施用）。

主な土づくり資材の施用の目安（春施用）

資材名	施用量 (10a 当たり)	特性等
鶏糞良好	60～100kg	ケイ酸、アルカリ分、遅効性カリ、リン酸、苦土などが一度に散布できます。
シンキョーライトP	60kg	含有成分のゼオライトは保肥力を高めます。根張りを良くし、安定収量と品質向上につながります。
スーパーけいさん鉄	60～100kg	ケイ酸のほか、鉄分を多く含んだ資材で、アルカリ分も高く、土壌の酸度矯正につながります。 ごま葉枯病が多発するなど、鉄不足のほ場に適しています。
発酵鶏ふん	(春施用)※ 75～100kg	腐植含量を高め、カリ等も補給できます。

※発酵鶏ふんを春に施用する場合は、基肥を窒素成分で1～2kg/10a程度減肥する。

(例) Jコートコシヒカリ1号（窒素成分21%）

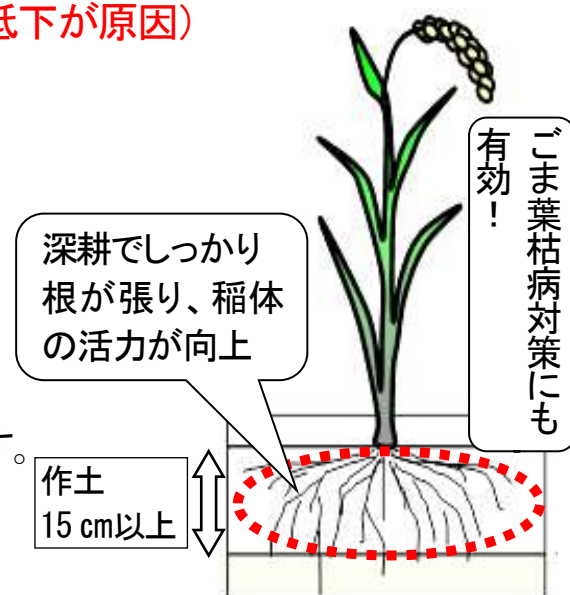
40kg/10a 施用の場合は、30～35kg/10a 程度に減肥する。



ごま葉枯病の病斑
(地力の低下が原因)

☆深耕の実施

- ・深耕によって作土層を確保すると、根圏が広がり根が十分に伸長します。深く伸びた根は収穫まで稲の活力を維持し、収量・品質の向上につながります。
- ・耕起の際は、トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くして、作土の深さ20cmを目標に、15cm以上の確保を目指しましょう。



令和7年 春の農作業安全運動 3月1日～5月31日

「農作業事故ゼロを目指して事故防止対策を徹底」

あなたも農作業中に「ヒヤリ」とした経験はないですか？

春の農繁期は農作業事故が発生しやすい季節です。

農場や道、用水路など危険箇所を事前に確認し、余裕をもった作業計画を立て、事故を未然に防止する対策を徹底しましょう。

全国でトラクターの
転落・転倒事故が
多発しています。



富山市農協ホームページで営農情報の提供を行っています

<http://www.ja-toyamashi.or.jp/jouhou/> こちらで検索！

JA 富山市 営農情報

検索

